

日時 10月3日(金) 12:30~14:30

会場 奈良県社会福祉総合センター 大会議室

笑って考える家族のカタチ ～男の家事が社会を救う ジャンボ宝くじを必ず当てる方法?!～

登壇者

講師：瀬地山 角せちやま かく (東京大学大学院 教授 ジェンダー論)

【基調講演】

瀬地山 角

まず高齢社会についてのお話をします。

労働力が減っていく社会で、今後労働力として追加導入が可能な選択肢は実は三つしかありません。日本の人口はあと25年で1億を切ります。増やせる余地があるとしたら、高齢者と女性と外国人しかありません。こんなときに日本人ファーストというような主張していたら、国自体、社会自体がダメになります。

高齢者の定義を65歳以上から70歳以上に変えてしまえば、20数年間高齢化が進まないんです。これは実はかなりきついことを言っていて、年金受給の標準年齢を70にしようという話です。私より年下の50代以下の皆さんは70代にならないと貰えないようにする法案に賛成しなければなりません。皆さんが払う保険料が高くなりすぎるからです。60代が自活する社会をどのように作っていくかが、今後日本社会にとって非常に重要な問題になっていくはずですよ。

それと皆さん自分の孫の面倒を見るから喧嘩になるんです。よその子どもの面倒見てお金もらってください。それで孫に何か買ってあげたらいいんです。そのように社会循環させていかないと60代で何とか自分で食いつなぐ社会ができない。日本社会は年金制度のできる前から細々と働いてということに対して肯定的なイメージを持ってる社会です。だから、高齢者が働くことについて特に抵抗を持たないんです。

去年の人口は、日本人が90万人減り、外国人が35万人増えたために55万人の減少にとどまっています。外国人を真剣に包摂するようにしていかない限り、コンビニも介護も工場も回りません。

ここから先は、色々な家族の話をしていきます。

まずは離婚です。この30年間の離婚件数は婚姻件数の3割を超えていて、大体31%です。これは去年の大谷翔平の打率と同じです。今時、結婚するっていうのは大谷翔平相手にマウンドに上がるピッチャーみたいに恐ろしいことなんです。それぐらい離婚はよく起きるものと言えます。男性の4人に1人はそもそも結婚しない。結婚した3人のうちの1人が離婚する。離婚が人生によくある不幸な出来事の一つになっているんです。むしろそれを前提にして、生活設計しなければなりません。女性の場合、自分に経





経済力があるからちゃんと独立ができて「こんな人はいない」で済むと考える人がいるから離婚が増えるのです。看護師さんたちの離婚が多いのは、日本中どこ行っても一定の収入が得られる経済力が背景にあるからです。ですので離婚が多い社会は、離婚すらできない社会よりはマシです。ただ、子どもにとって親の離婚は天災以外の何物でもありません。私達は学校で離婚について全く習いません。家庭科でリボ払いの説明までしてるのに、なぜ離婚の話をしないのでしょ。うか。「養育費いらないから別れて」なんて言っは駄目なんです。養育費は子どもの権利ですから、親が勝手に放棄してはいけません。大学の講義でこれを話すと、夏休みに父親と交渉しますと言う学生が必ず出てきます。

養育費算定表という裁判所が決めた基準があり、相手との収入差があると高額な養育費が出ます。それを公正証書という書類にしておけば、養育費の支払いが滞っても、裁判所が強制執行をかけてくれます。公正証書は作成に数万円かかりますが、最初に作っておけば後の取立てコストはゼロになります。こういった知識を常識として学校で教えないといけない。一番大変な思いをするのは、離婚によって

貧困に陥ったひとり親家庭の子どもたちなんです。次に、選択的夫婦別姓です。国会議員の半分が女性だったらとっくの昔に実現してるはずですよ。夫婦同姓を強制する制度を日本の伝統などと勘違いする人がいますが、実は明治時代に西洋をまねて導入したものです。中国や朝鮮半島は原則別姓です。旧姓使用を進めるといいますが、例えばパスポートのICチップには名前は一つしか入りません。海外からのインビテーションが通称名で来ると、ビザを取ろうとした際に問題になったりするので。

瀬地山という苗字の人間は日本に21人しかいません。私は絶対変えたくない。ですから相手には絶対変えろとは言えません。そういうアイデンティティの問題もきちんと考えてほしい。京(みやこ)さんという女子学生が「北さん、南さん、東(ひがし・あずま)さんとの結婚は無理です」と訴えていました。笑い話ではすまないんです。一方国際結婚は日本の民法でもなんと原則別姓です。あんなに家族の一体性が、といっているのに、国際結婚には一体性はないのでしょうか。

日本の国籍法は血統主義なので、子どもは親の国籍を受け継ぎます。アメリカは出生地主義です。私の子どもたちは日本人が2人、韓国人が2人、アメリカ人が1人います。上の子は日米韓の三重、下が日韓の二重国籍です。彼女ら・彼らは20歳になって選択するとき、日本国籍を選択した場合には外国籍の放棄に努めなければならないというのが現行法の規定です。努力すればいいだけで、実際に督促が来た例もありません。

1984年に父母両系主義になり、母親が日本人のケースでも日本国籍を取れるようになりました。これは女性差別撤廃条約を批准するために変更になった規定です。日本と韓国のように両側が血統主義の場合には自動的に二重国籍が生まれ、それを強制的に解消させるシステムは日本では作動していません。実質的に不可能ですし、それを一つに絞るといふ義務はないんです。そもそもひとりの人間がひとつの国籍だけをもつという前提自体が、国境を越えた人の移動が増えている時代にそぐわないのです。一方で問題は、日本で生まれた外国人同士の子どものこと。彼らは日本国籍を持たず、外国人登録をしていないケースだと小学校の案内が来ない可能性があります。

次に同性婚。同性婚とパートナーシップの一番の違いは遺産の問題です。条例は法律の下位規範な

ので、同性婚にしないと、民法の規定が優先され、例えば子どもがいなかったらパートナーではなく、死んだ人の親やきょうだいへと全部財産がいくんです。

同性愛者であるかどうかは外から見てもわかりません。日本は在日の問題と同性愛の問題が同じ構造になります。つまりカミングアウトが同じ構造を持つ。「私実は在日で…」と言われたとき、皆さんは善意で、「大丈夫そんなの関係ないから」と言ってしまういませんか。これは相手のアイデンティティを無視する恐ろしい発言になりかねません。私は、「みんな違ってみんないい」という言葉は、使ってはいけないと思っています。当事者の抱える微妙な差異を無理解なまま塗りつぶすような言葉だからです。

同性婚のアジアの最先進国は台湾です。台湾の同性婚は裁判所で認めなければならないという判決が出て、後から政治が追いかけたのですが、国民投票の結果、民法への組み込みは反対派の方が勝ってしまったんです。特別法を作る形で同性婚が認められました。一方で注目したいのは、その国民投票の最中に作られたのが金蘭という醤油メーカーのレスビアンの家族をテーマにしたコマーシャルでした。たかだか醤油なのに、そして、不買運動が簡単にできてしまうのに、こういう発信ができることはすごいことだと思います。

私は配偶者控除や、年金の第3号被保険者制度等は廃止すべきだという立場をとっています。高度成長期型のシステムを維持しておくこと自体に意味がない。主婦を保護するのではなく、そのお金は全部子どもに集中するように、親がどうであるかとは関係なく、子どもにちゃんとお金が行くシステムにしないといけない。働く能力のある女性が働いていないことに対して、わざわざ税金を返す必要はないと考えます。主婦が悪いといたいのではなく、制度設計がおかしいんです。

地域的な分布を見ると、夫の稼ぎが少なく妻の稼ぎが家計に組み込まれている共働きの多い地域(左側)と、夫の稼ぎが多く妻の学歴が高い専業主婦の多い地域(右側)があります。右側には奈良、大阪、兵庫、京都、首都圏が入っています。どうして山形、福井、島根等の貧しい共働き世帯から金をとって、奈良、大阪、神奈川の豊かな専業主婦世帯に向かって税金をわざわざ還付するのか。これはつまり、貧しい方から豊かな方にお金を移転してるんです。

ちなみに、女性が働いていないところほど、女性議員の比率が高いんです。女性が働く県ほど、女性議員は少なくなります。奈良は女性が働かず、女性議員も少ないという珍しい例です。

さらに夫の年収を横軸に、専業主婦の働いている割合を縦軸にしてグラフにすると、豊かな世帯ほど働く割合が低くなります。なので統計的には明らかに貧しい世帯からとりあげて豊かな世帯に還付しています。

ただ問題は主婦vs.働く女性ではなく、男性の家事育児時間が少なすぎることです。共働き世帯で男性1時間対女性5時間。これは社会的に問題にすべき水準だと思っています。

国の出生動向基本調査でみると、独身男性が結婚相手に求める条件は、人柄を除くと、トップが家事育児の能力、2番目が仕事への理解、3番目が容姿です。女性が男性に求める条件も、人柄を除くと、なんとトップは家事育児の能力。2番目が自分の仕事への理解で、3番目によやく経済力なんです。男の子は受験勉強してる場合じゃないんです。勉強より夕食を作るのをちゃんと教えてください。その能力を持っている方が絶対生存確率は上がります。

女性は今、専業主婦になるだろうと思っている人がわずか3.6%しかいません。男性側も(専業主婦に)なって欲しいと思ってるのは6.8%しかいない。女性は働こうと考えているので、相手に家事育児の能力を求めるのは合理的ですが、男性は専業主婦になって欲しくないと考えているのに、相手に家事育児の能力を求めています。これでは女性に対し、働きながら全ての家事をやれというのと同じです。無理なんです。男性の要求には無理があり、50歳時点未婚率(生涯未婚率)は男性の方が格段に上がっ

ており25年データで3割を超えるはずです。

2012年の味の素のCM「日本のお母さん」は母親の食事作りを極端に強調するものでした。これを見て女性は応援されたと思うんでしょうか？味の素に抗議したところ、「父親が子どもの着替えを手伝う場面なども制作しましたが、母親が主人公のため父親を前面に出す演出にはなっておりません」と回答がありました。父親が家事育児を「手伝う」などと考えていることをもって固定的性別役割分業というのです。こんな回答を堂々と返してくる会社の感覚が理解できません。家事は手伝うものではなく、共有して分担するものです。格好の題材だと思ったのでネット記事にしてあります。「瀬地山 味の素」で検索してみてください。さらにそのCMでは「あなたはあなたの食べたものでできている」というので私はこの案件以来、味の素の商品は一切買わない「一人ボイコット」を楽しんでいます。

共働き男性の家事の最低水準は、手間をかけなくてもいいから夕食を平日に2～3回分担することであるはず。これができないと妻は働けません。

少子化という現象を説明するために、環境問題の例えを使います。植林をしない林業者と植林をする林業者が競争すると、植林をしない林業者が勝ち、最終的に日本中が禿山にされ、30年後に大水害という形でツケを一気に払わされます。環境に優しくて値段の安い商品というのは存在しないんです。

植林を子育てと置き換えます。子育てのコストが、女性労働者の方の上のみ加算されているように、企業から見えている状態なんです。企業は男性の労働力を購入することによって、子育てのコストを回避できてしまう。結果として、子育てをしない人ばかりが会社に集まるので子育てのできない会社になり、最終的に子育てのできない社会が出来上がるんです。これが、少子化という現象です。根本的な原因は、子育てをしない男性ばかりが働いているから、それができるような働き方になっていないことです。だから、ワークライフバランスは男性の問題でなくてはならず、産後パパ育休をせめて皆が取るようにしていかなくてはなりません。

私はイクメンという言葉が大嫌い。自分の子どもの面倒を見ているだけです。イクメンという用語は、自分の子どもの育児にすら関わらない父親がいる社会でしか生まれません。日本の異常さをよく示している言葉だなと感じます。

お父さんは育休を取ることをためらわないでほしい。次の人が取りやすくするために、取らなきゃいけないんです。社員が育休を取得すると企業は一切お金を払わず、手当金は全部雇用保険から出ます。だから育休を取ると現場が忙しくなる、というのは本当はおかしいんです。取った人の人件費が浮いているんですから、その使い道を考えてください。

父親だけが働く一頭馬車体制は、このご時世、男女の平等云々以前に危険です。馬は3分の1の確率でいなくなるし、失業したら終わりです。共働きじゃないとリスクが高すぎる。

女子学生の皆さんはみんな少なく見積もって、大体2億円のジャンボ宝くじの当たりくじを持っています。ところが統計的には約半分の方が、それを途中でドブに捨てています。皆さんのパートナー（男性）が捨てさせているんです。仮に、最初の子どもが生まれた後も正社員で働いたら、その女性はそのあとの約30年で大体2億は稼ぎます。それが非正規になってしまうので、億単位のお金が消えるんです。女性の正社員での就労というのは、家計に異次元の収入をもたらします。

夫の家事を時給で計算してみましょ。女性がフルタイムで働いたときに必要な男性の家事量は平均すると年間約1,000時間です。女性の年収を1000で割った数値が、その男性の家事の時給と言えます。女性が400万稼いでいる場合、時給4,000円です。男性の家事の時給は男性自身の残業代の時給より必ず高いんです。正規の共働きの方が絶対に得になります。年金も専業主婦だと6～7万しか出ません。年収500万で2人が働いたほうが老後も安心です。

もう正社員をめざすのが難しい、あるいはうちの夫はなにもしない、という方へのアドバイスとしては、パートナーにこれは家事の分担ではなく、避難訓練だと伝えてください。まず土日の昼ご飯をお父ちゃんに任せます。平日の朝ご飯は、毎日同じものを作ってよくて、所要時間ほぼ10分。これも夫の担当に。妻だって寝こんだり入院したりします。そのときに料理ができないと夫自身が大変なことになります。だから避難訓練なんです。ゴミ出しは、出来上がったゴミを集積所に持っていただけだったら家事ではありません。私は「ゴミとの散歩」と呼んでいます。



男性差別の話もしておきましょう。中高年の男性の自殺が圧倒的に多いんです。男女比でいうと2対1。大黒柱が屋根の重みに耐えかねて、死んでいってるんです。

そして最近、「黙って俺について来い」と言うタイプの男性がいなくなりました。女性だって自分の意見を聞いて欲しいと思うようになったんです。当然です。ところがその優しくなった男性を指して女性が、「でもいざっていうときは私を引っ張ってくれる頼りがいがある人じゃないと」と言う。優しくて頼りがいのある人というのが、人気があるそうですが、「意見を聞け」と「聞かずに引っ張れ」というのでは、同じ項目について逆のことを求めていることになります。いつもやさしくて時々ぐいぐい引っ張ってくれる。こんな都合のいいのはペットの犬だけです。女性に残されている選択肢は、その「頼りない」彼と一緒に悩んで結論を出すことであって、女性にも責任から逃れないで欲しいと思います。大黒柱の時代は終わったんです。

ジェンダーギャップ指数をみると、高等教育の順位では148カ国中112位です。教育には高等教育の場で強烈な差別があるんです。例えば、愛知県の県立高校の合格実績の表を見ると、「女の子は浪人するな、女の子は親元から通え」という二つの圧力がかかっていることが読み取れます。女子高校生は第1志望を受けさせてもらえていないんです。

男女共同参画という言葉は普及しているとは言いがたい状況ですが、基本法の前半に「性別に関わりなく」という文言が出てきます。これは異質平等論（男と女は違うけど平等）という考え方を明確に否定してる箇所なんです。個人差は常に性差を超えます。まともな学者は「男性脳、女性脳」なんて言いません。脳は性別による違いより個人差の方がはるかに大きいので。日本社会の思い込みが作り出したものを変えていくことができるはずですよ。それを性別からの自由と呼ぶのです。

【質疑応答】

(色字はLiveQからの質問、感想)

司会 LiveQ (質問フォーム) を使って、皆さんからの質問や感想についてお答えいただきます。

【残業が多いから夫が夕食を作ることが多いです】

瀬地山 当たり前のことですが、それでいいんです。これはちゃんとジャンボ宝くじの現金化が進んでいるという状態だと考えてください。

【主人というのはやめませんか?】

瀬地山 本当そうだと思います。私は友人が言ったときには、「お前いつから飼われてる犬になってん」っというようにしてるんですけど、抵抗があります。パートナーと呼びます。

「日本は子育て等が難しいが、他国と比較して国のサポート等にどのような差があるのか？」

瀬地山 他国と比較すると日本の政策的なサポートは非常によくできています。育休の制度と保育所だけに関して言えば一番充実している。難しいのは職場の理解がないとか、男性自身がわかっていない等、制度を使う側の問題だと思っています。

「見た目だけの育休を取ることで会社も育休の実績があるという形になっています。」

瀬地山 その数日単位の育休は、休んでも邪魔になっただけです。(家庭で) 戦力になるには、最低限月単位で(育休が) 必要なんです。無いよりはマシなので、みんなが休むシステムにしていこうと自体には意味があるとは思っていますが。

「講義を聞いても「女性は何をどうしたらいいですか？」という男性社会への不満が残るだけ。」

瀬地山 パートナーと話をしてください。次は発信するんです。物がわかって、怒りを持ったのなら、それをちゃんと発信し、仲間を増やす作業をしていくんです。それが社会運動です。黙ってても社会は変わりません。戦わないと社会は変わらないので。

「母子家庭で、家事をしない男性と同等の仕事をしようと努め、眠る時間も削っているが、仕事に向いていないと言われるのが悔しい。」

瀬地山 まず養育費算定表で検索をして調べてみてください。相当な額の養育費が出るはずですよ。長丁場ですから、早く公正証書を作るなり、何か手を打って考えてください。一番危険なのは、睡眠時間を削ってご自身が倒れることです。仕事の評価以前の問題です。まずは養育費について弁護士さんか法テラスなどで聞いてみてください。例えば明石市では市が(養育費を) 立て替えて取り立てまでやっています。

職場の状況がわからないので、なんとも申し上げられないのですが、女性をひとくくりにして二流市民扱いしている会社だと職場を変える必要があるのかもしれない。子持ちの女性の上司がいる会社かどうかチェックポイントです。

「配偶者控除をなくすか変えるかしてほしい。」

瀬地山 何度か政府もその方針を打ち出していますが、政治家が動けないのは、専業主婦世帯の票が減るからでしょう。有権者の側が変わらない限り、これは変わらないと思います。有権者がアホやとしか思えません。

「職種が異なり残業の多い妻の仕事への理解が低い夫に対し、これを改善していくためにはどのように相手に理解を求めていけばよいか…」

瀬地山 まずは話し合いの問題です。徹底的に話し合うしかないです。それがダメならより強力な手段です。ストライキ、サボタージュ、別居などです。波風立てないと、物事は変わりません。

「男性に育休取得してもらっても、世話をあげなければならない人が増えたという話を聞いたことがある。」

瀬地山 邪魔になる育休ですね。取得が一、二週間だとそうなります。日本の制度は、男性と女性の交代で取った方がもらえるお金は大きくなるようにちゃんとできていて、政策はよくできています。月単位で取らないと意味がありません。逆にいうとはじめの頃に男性が月単位でとって家事スキ



ルを上げておくと、あとあと貴重な戦力になります。

司会 今、子育て中の親は男の子を育てる時、将来結婚したら家事も育児もできる男性に育てあげ、必ずジャンボ宝くじを当ててもらいましょう。そしてシニア世代は、家事育児を積極的にする息子には温かい気持ちで見守っていきたいですね。

父親の育休については、取ってずっと家にいてくれなくてもいいから、毎日の仕事を終えて5時頃には帰宅しているような働き方を求めている母親が多いです。

瀬地山 育休の話で言うと、やっぱり出産に立ち会うということは重要です。大谷翔平だって休むんですよ。それぐらい重要なことなんです。次は保育所のお迎えからです。送りだけじゃなくて、週に1日でもいいので、ちゃんとお父ちゃんのお迎えの日も作ってくれと。一日しか無理なら水曜にしてください。水曜にすると、月火は残業しても、水曜1回定時で帰るわけです。木金働いて土日来るので、大きな体調の崩れがなくなります。

最後に、私達ができることとして、SNSとかも含めて主張はしやすくなっているわけですから、そうやって発信をしましょう。発信は徒党を組まないという意味がありません。ちゃんと徒党を組んで、声にしてあげていくから物事が変わっていくわけです。夫婦関係においてもそうで、声を上げないと現状は変わりません。自分が「こうだ」と思うときは、ちゃんと声を上げてほしい。また、少なくともそうやって声を上げている人間に対して、きちんと援護射撃をしてほしいと思います。

【分科会4提言】

- *必ず当たるジャンボ宝くじをドブに捨てないために、妻が正社員で定年まで働き続けられるように、男性が家事・育児を分担しよう。そうすれば約2~3億円の収入を得られる試算。
- *男性の家事・育児に費やす時間が少ないのは社会課題。男性が子育てに関われるような働き方をしよう。
- *社会制度、企業風潮、家族のジェンダーバイアスに疑問を感じたら波風立つことを恐れずに、声をあげて変えていこう。また、そういう人の応援をしよう。